

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672900190
法人名	医療法人 健誠会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 すこやか
所在地	鹿児島県日置市東市来町湯田3007番地 (電話)099-274-3672
自己評価作成日	2013年 11月 1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に建てられたホームであり、周囲には公園や商店などがあり、入居者にとって静かで安全な馴染みやすい環境にある。医療機関も併設しており、健康管理を行う上で、ご家族にも安心と信頼を得られた生活が送れている。
入居者が楽しく笑顔ですこやかに暮らすために、日々の会話を大切にし、毎月の季節にあった行事を行いながら入居者の笑顔を引き出せるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○東市来町の温泉街のすぐ近くで、閑静な住宅街の中に母体病院に隣接して建てられている。近くに公園・スーパーがある。白い外壁の2階建てで、共有空間は、木目調で優しい温かい雰囲気があり、とても広々としている。

○地域との交流が活発であり、自治会に加入して地域の活動や行事などに積極的に参加するとともに、日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人々と挨拶や話を交わして馴染みの関係が出来ている。運営推進会議、サービス担当者会議、すこやか会議等の会議を充実させて、利用者・家族・行政・民生委員・医師・職員等からの意見、要望を広く集め、検討し、常にサービスの向上に努めている。介護計画は、ケアに関する短期目標を丁寧に確認、記録し、それを基に評価し、計画の見直しを適切に行っている。

○食事を楽しむことに重きを置き、食事の形態、食器や自助具なども検討して、個々の方にあつた方法を工夫している。検食簿を作成し、一日を一頁に写真付で献立、材料、味付けを記録し、評価をしている。その記録を、行事食や日々の献立作成に活用している。

○職員と管理者、施設長との関係が良好で、意見や要望が自由に言えて個人相談等も気軽に出来る職場環境である。チームワークが良く、事業所理念をふまえた年度目標が達成できるように一丸となって取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域社会の一員として」安心して過ごせるという地域密着型サービスの趣旨を反映させた理念に基づき実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をとらえた事業所理念があり、掲示するとともに、申し送りやすこやか会議等で確認し理解を深めている。また、理念のほかに施設目標を毎年度掲げ、より具体的なサービス向上にむけた取り組みをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。散歩や買物で出会う方々と気軽に声を掛け合ったり、立ち寄ってもらえるように日常的な会話をしている。	自治会に加入し、夏祭りや敬老会に家族と共に参加して、地域との交流を深めている。地域の方むけに認知症の講話を行ったり、他事業所と交流を含めた一日研修会を行ったり、積極的に地域とのネットワーク作りをし、お互いに協力しあう関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域行事等に参加した際、地域の方々へ何でも気軽に相談して頂けるように呼びかけたり、福祉体験学習や介護実習生の受入れも要請があれば積極的に受入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活状況及びサービス提供状況を報告し、意見交換を通して、毎月の振り返りを行いながら、サービス向上に向け取り組んでいる。	1, 2階のそれぞれの家族代表者、自治体の関係者、法人の関係者など多くの参加者を得て、定期的に開催されている。行事の報告、予定の案内、また参加者から多くの意見を頂き、出された意見はすこやか会議(職員会議)にて検討している。インシデントの報告では、発見(発生)時刻、場所の報告はもとより、参加者で対策を検討することも有り、サービス向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村とは書類手続きやサービス提供に関し、何でも気軽に相談にのってもらえるような言葉かけをしてもらっており、意見交換をしながらサービスの向上に取り組んでいる。	市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂き、行政の情報などを聞く機会ともなっている。その他、日頃より書類手続きや制度について、困難なニーズ、相談事などを具体的に伝えて、適切に助言を頂く関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が鍵をかけることへの弊害を理解出来るよう、職員会議や勉強会を通して説明し、ホームの出入り口には、センサーを設けて入居者の方々の安全に配慮している。また、言葉かけによる拘束にも注意を払いながらケアに努めている。	法人、事業所の年間計画に権利擁護等の研修が組まれており、また自治体の連絡協議会等での認知症の研修会に積極的に参加し、全職員が身体拘束についての正しい理解と知識を深めるように努めている。玄関などの施錠は行わず、見守りや玄関センサーの設置で対応し、外出する方には行動を止めることはせず、職員が同行して気持ちが落ち着くまで対応している。言葉による拘束にも配慮して日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会を通し、抑制や虐待について考え、個々の対応を振り返り、情報を共有しながら、職員一人ひとりが意識したケアにつながるよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	過去に成年後見制度を利用した事例はあるが、現在対象者はいない。必要な方がいらした場合には支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書は、十分な説明を行った上で、ご家族の同意を得ている。解約は契約者との話し合いの中で、信頼関係のもと円滑に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者からのサインを見逃すことのないよう、些細な事でも職員が早めに気づき対応し、職員間の申し送りをその都度行うように努めている。また、家族や入居者の会話に努め、不満や相談事などがなければ確認し、早期解決を図っている。	入所時の聞き取りで、本人・家族からの希望を把握している。利用後は、職員がケアの中から気づいたサイン、不穏時の行動などをケア日誌・申し送りなどに記録し、職員間で検討し改善に繋げ、早期に反映させている。家族へのアンケートや家族会などで上がった意見・要望も、職員間で話し合い、早めの対応、時には介護計画の見直しなどに繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や定期的な個人面談等で、職員からの意見を聞くようにし意見や助言を行いながら、話し合いの中で取り入れるようにしている。	法人の全職員が自己評価を行い、目標を持って自己研鑽に努め、定期的な個人面談等で運営や処遇に関する意見を出す機会を設けている。職員の意見や提案は尊重し、検討して運営や設備の改善等に繋げている。職員、ホーム長、管理者との関係は良好で、屈託のない意見が出され、サービスの向上に繋がる話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度の導入に取り組み、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努め、柔軟な勤務体制に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内学習のほか、外部研修への参加、毎月の勉強会や職員会議を通して、日々の生活を振り返りながらトレーニング出来るよう職員育成に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホーム間で、運営推進会議への相互参加を行い意見交換を行っている。また、日置市連絡協議会の研修参加や連絡会での交流や意見交換が出来ており、質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に困っていること、不安なことなど、何でも相談しやすい雰囲気づくりに努め、生活状況を見極め要望等がないか確認し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に困っていること、不安なことなど、何でも相談しやすい雰囲気づくりに努め、ご家族が面会に来られた際も、生活状況の報告や要望等がないか確認し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及びご家族が何を望んでおられるかを良く聞き、どのような支援が最適か、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	老いや認知を感じさせないように、言葉かけには十分配慮し、個々のできる事をみつけて共にやっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	散歩や行事など共に過ごす時間を共有し、職員、入居者、ご家族の想いにズレが生じないように要望を確認しながら、一緒に支えていく関係づくりに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろんの事、知人、友人等の自由に会いに来れるよう支援している。また家族との外出をすすめ、外との繋がりも大切にしている。	入所前の生活歴、家族・親戚・知人等の情報をアセスメントにより把握し、これまでの関係が途切れないように支援している。家族・知人の訪問をいつでも歓迎し、家族の協力を頂きながら自宅への泊まり、墓参り、外食等の外出支援、年賀状書きの援助、電話の取り次ぎ等日常的に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配慮を行いながら気のお友達とテーブルを一緒にしたり、さりげない言葉かけや援助で、入居者同士関わり合いがもてるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疑問や困ったことなど、いつでも相談していただけるような関係づくりに努めている。また、病院のMSWや居宅介護支援事業所とも情報交換が出来るよう連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、ご家族にどのような暮らしを希望されるか良く聞き、希望に沿った暮らしが出来るように努めている。判断出来ない方もできるだけ本人の気持ちをくみ取る努力している。	一人ひとりの思いや日常生活に関する希望や意向を日々の支援の中で、会話や仕草、表情等から汲み取るように努めている。特に入浴の時間は、ゆっくりと和んだ状態でたくさん話を聞くことが出来る。把握した情報は、すこやか日誌等を活用し職員間で共有して検討し、現状に即した対応に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者個々の想いを受け止め、ご家族や知人からも、生活歴などを聞くように努め、家族、本人から知り得た情報は職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通し残存機能の把握に努め、心身の状態変化や日々の変化など申送りや日誌等で情報を共有し、快適な日常生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日常の会話やアセスメント等で得られた意向に添って、必要な関係者と話し合い、職員会議等での意見交換を経て、介護計画を作成している。	すこやか会議で毎月カンファレンスを行い、現状に合った計画か、職員から出された意見等を元に検討している。モニタリングは3ヶ月ごとに行なっている。申し送りが出た意見はその都度検討し、軽微なものは即対応し、介護計画の変更が必要な場合は医師・職員・本人・家族の意見を伺い、話し合いを行って、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや、実践、結果など、個別に記録し日誌や送りノートで情報共有している。不明な点はその都度確認して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出、外泊支援、個別の買い物支援を行っており、家族宿泊時は布団、食事提供できる体制はある。外出の際、車椅子等必要な物についても貸し出しを行い、柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて他のサービス利用を支援する体制はある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の支援は、本人の意向やご家族の希望を優先し支援している。また、協力病院で定期的に受診を行い、緊急時の対応を含め、適切な医療ケアが提供できるよう努めている。	本人・家族の希望を優先してかかりつけ医を決めている。協力医が主治医の場合は、定期的な病院受診に職員が同行し支援を行っている。緊急に受診したり、薬の変更などはその都度家族に報告しており、場合によっては医師より家族に説明を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の外来看護師との連携で、健康管理について気軽に相談でき、支援が出来る体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、必要な情報を提供し、医師からも入院計画書の提供などを受け、連携を図り早期に退院できるよう情報交換や相談に努めている。また、職員や入居者も面会に行き励ましの言葉をかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や運営推進会議などを通して、重度化や終末期に向けた方針の共有を図っている。また、退居条件と照らし、個々の家族と話し合いを行いながら方針の共有に努めている。	重度化や終末期に向けた施設の方針は、入所時に、重要事項説明の文書を基に説明し、同意を得ている。また、家族会や運営推進会議を通しても説明を行い、共通理解を図っている。現在まで看取りの事例はないが、少しでも本人・家族の意向に沿った支援が行えるよう、個々の話し合いを持ち、家族、医師、関係者が連携を図り、出来る支援をチームで取り組んでいく姿勢である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応について、職員会議や個別に説明を行っている。また、救急対応については、職員の不安等の確認を行い、勉強会で理解し、夜間対応についても協力病院と連携できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者参加で年2回実施しており、自治会の方々に参加のお願いはしているが、訓練の参加は難しい。	夜間想定を含めた災害(地震・火災)避難訓練を年2回実施している。全職員が一度は訓練に参加できるように、ローテーションを組んで行っている。消防署による講話・講評があり、参加者は感想文を書いて訓練の振り返りを行っている。スプリンクラーや隣接の病院・職員にも連動した災害自動通報装置の設置や水・食料の備蓄も整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や勉強会を通し自尊心を傷つけないよう説明している。また、日常的に職員間でもやさしい言葉かけが出来るように配慮している。	法人の年間研修計画の中に組み込まれ、事業所においても、権利擁護・認知症の研修、接遇マナーなどでプライバシーや個人情報保護に関する学習を行っている。日常のケアにおいては、人格の尊重や自尊心・羞恥心に配慮した言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員中心の言葉かけにならないよう言動の観察を行い、残存能力を活かしたケアに努めている。自己決定できない方には、その方の気持ちになり支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、日課に沿った生活ではあるが、個々の意向に合わせて、無理強いしないよう言葉かけを行い、希望があれば可能な限り対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床と就寝の際は、更衣を行っている。日中の服装は、自分で選べる方は自分で選んでもらい、選べない方はその人に合った服を職員が選んで着て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し、状況や希望によって対応出来るようにしている。また、食事準備から後片付けの参加は、個々の能力に応じた支援を行い楽しい雰囲気づくりに努めている。	利用者の食べる楽しみを大切にし、バイキング、旬の食材使用、祭事の料理、外食、おやつ作りなどメリハリのある食の提供をしている。利用者の希望、状態に合った調理方法や食器や自助具利用の工夫をしている。検食簿を作成し、毎日の食事内容を写真付きで記録し、評価を行いながら行事食や日々の献立に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量、体重チェックを行い変化があった際は職員会議等で確認し、共通理解に努め、個々の嗜好に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの状況をさりげなく確認し、入居者個々の状態に応じて、言葉かけや誘導、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々にあった排泄パターンを把握し、排泄用具の昼夜の使い分けや言葉かけでの誘導をしている。排泄チェック表の活用にて個々の排泄パターンを把握し、出来るだけ失禁にならないよう、職員間の連携を取っている。	排泄の自立支援に向けて、排泄チェック表を活用し、排泄の失敗がなるべくないように羞恥心に配慮した声かけを行い、トイレへの誘導を行っている。失禁等した場合は、自尊心に配慮した声掛けを行い、職員が連携して素早いフォローを心がけている。夜間はセンサーマットを活用し、転倒防止に気を配った介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より食事のバランスや適度な運動、水分補給などに配慮し取り組んでいる。また、便秘についての理解をし、下剤に頼らない形で自然排便が出来るよう牛乳、飲むヨーグルトの提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の希望があれば毎日でも入浴は可能であり、拒否が強い時は無理強いせず、一人ひとりに合った入浴の介助を行い、状況に合わせた入浴を支援している。	入浴日は特に設定せず、午後からであればいつでも入浴が可能な体制である。入浴管理表があり、個々の状況に合わせて支援している。皮膚疾患の利用者への配慮や利用者の体調、気分では清拭、足欲等に臨機応変に対応している。現在、入浴拒否の方はおらず、全員が入浴出来ている状況である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の日課にとらわれず、その日の体調に合わせた休息や個々の生活習慣を見守り、不安なく安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の情報を共有し、薬の目的や副作用等について理解している。変更があった際は、症状の変化が無いか観察を行い職員会議や勉強会等で情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった生活リズムが作れるよう日常の会話や家族からの情報をもとに、個々の得意な事を見出し、生活習慣を活かしながら生きがい対策支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族との外出はもちろん、個々の希望に添って、日々の散歩や季節の行事を通して、家族と共に過ごす機会づくりに努めている。	日常的に公園への散歩や近所の店への買い物に出かけている。施設で企画した季節の花見やソーメン流し、地域の行事への参加の他、家族との外出や冠婚葬祭への参加など、出来るだけ本人の希望に沿った外出支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の能力にあった金銭管理を行ない、行事や買い物への参加で、使える支援を行なっている。また、ご家族の理解のもとそれぞれに対応できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎはもちろん、自分でかけたいとの希望があれば個々にあわせた対応をしている。また、年賀状作成を行い施設にいても交流が持てるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには季節の花を飾ったりしながら、清潔に保ち、BGM等も環境に合わせて変更しながら落ち着いて過ごせるように努め、毎月の壁画等の作成も皆で行っている。</p>	<p>ホールは木目調で温かい雰囲気のある広々とした共有空間で、テーブル周りには車いすでも自走できるスペースがある。季節の花が飾られ、壁には利用者で作成した作品が掲示されている。乾燥を防ぐための加湿器が設置され、外部からの音や刺激が少なく落ち着いた環境でゆったりと過ごすことが出来る。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自席やソファで思い思いに過ごせる居場所があり、本や新聞、テレビなど自由に観賞できる。また、気の合う方との会話やテーブル配置も工夫し、居心地の良い空間づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に馴染みの物を持ち込んでいただくよう声かけし、居室も本人が住みやすいように配置を工夫している。</p>	<p>全室、エアコンと畳敷きベッドと収納タンスが備え付けられている。外がながめられる窓があり、外気を取り入れることもできる。家族と相談しながら、本人の使い慣れた寝具や日用品を持ち込んで頂き、居心地よく暮らせる居室となるように配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレ、浴室など場所が分かり易いように表示し、日常的な不安が生じないよう個人に合わせた環境作りに努め生活自立への支援を行っている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない